

丹波の希少種 (トケンラン) の再発見



自然・環境再生研究部 生物資源研究グループ

藤井 俊夫

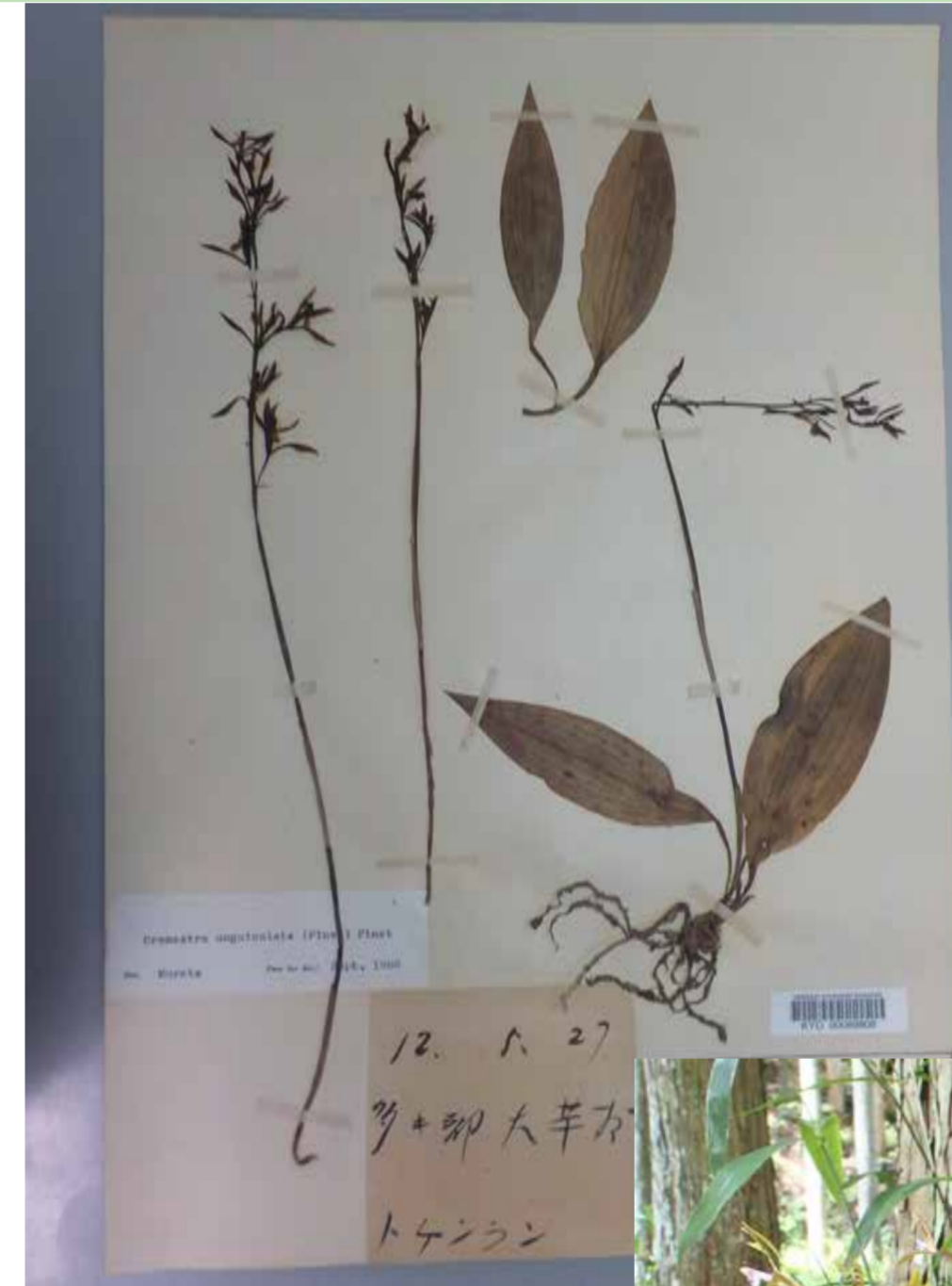
丹波地域の植物相は古くには丹波在住の細見末雄、樋口繁一ら、在野の植物研究者によって行われてきた。当時、牧野富太郎が神戸に滞在した時期でもあり、植物同好会の黎明期となり、京都大学の小泉源一や田代善太郎、大阪池田師範学校の堀勝などの指導を受けながら丹波地域の植物相の解明に努めてきた。

昭和の初めから戦後にかけて (1920 年から 1950 年) 現在では見られなくなった貴重な植物の標本が採集されていることが明らかとなってきた。

樋口繁一が丹波篠山で希少な植物として以下の 6 種を報告している (樋口, 1950)。

ホウライカズラ、ホンゴウソウ (ウエマツソウの誤同定)、クロタキカズラ、トケンラン、アズマイチゲ、ステゴビル (ステゴビルは標本が残されておらず、誤認の可能性がある)。

丹波篠山市の東部でトケンランを約 80 年ぶりに再発見したので報告する。



Specimen examined:

JAPAN. Hyogo Pref., Oh-imo-mura, Taki-gun, Tanba.

27 May, 1937. Shigekazu HIGUCHI (KYO: 89808).

JAPAN. Hyogo Pref., Fukui, Sasayama-city. 23 May, 2015.

Toshio FUJII 29228 (OSA).



Photo: 樋口清一 ©(23 May, 2015)